

第1回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和7年10月28日(火)18:30~20:00
開催場所	北川村民会館 大ホール(オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 委員 岡宗委員、橋本委員長、山崎委員、熊瀬委員、土居委員、百々委員、井津(文)委員、田所委員、稻毛委員、井津(信)委員、有光委員 ■ アドバイザー 長岡アドバイザー、岩城アドバイザー、野島アドバイザー ■ GPMO 神原、山内、湯川 ■ 事務局 濱渦教育次長、堂脇次長補佐、堅田次長補佐、植田主任主事
議題	<ul style="list-style-type: none"> (1)開会 (2)委員紹介 (3)今後の検討に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・北川村の概要と教育・施設の現状について ・令和3年度北川村文教施設・子育て教育環境等整備事業基本計画について ・目次・論点(案)について ・検討スケジュール(案)について (4)次回の検討委員会について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料1 北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会設置要綱 ・資料2 北川村の概要と教育・施設の現状 ・資料3 北川村文教施設・子育て教育環境等整備事業基本計画(ダイジェスト版) ・資料4 北川村保小中一体化施設整備基本計画 目次・論点(案) ・資料5 北川村保小中一体化施設整備基本計画 検討スケジュール(案) ・参考資料1 保育・教育施設の現況(図面) ・参考資料2 北川村文教施設・子育て教育環境等整備事業基本計画報告書

議事経過	<p>(1)開会</p> <p>【岡宗副村長】</p> <p>人口減少が喫緊の課題。北川村では、まち・ひと・しごと創生総合戦略において、2060年に目指す村の姿として「千人の家族が子どもを育む ゆず王国北川村」を掲げており、北川村に住みたい、帰ってきたいと思える生活環境を整えるため、仕事の確保と並行して、子育て・教育環境の充実に取り組んできたところ。</p> <p>子育て・教育関係では、令和2年度から「子育て教育ビジョン」に基づき、また、本年3月には、「マスターPLAN」を策定して、保小中の一体的な取組、北川学など、ソフト面での充実を図ってきたが、昨今の環境の変化に合わせて、ソフト面のみならず、ハード面についても魅力化を図ってまいりたいと考えており、本日お集まりいただいた皆様にご議論いただくこととしている。</p> <p>令和3年度の議論を基に、施設の整備状況、村の財政状況等を踏まえ、より具体的かつ実現可能な計画を今年度末目途に策定できればと思う。</p> <p>「北川村から教育をなくさない」のはもとより、当村のような小規模な自治体が魅力・特色ある教育を形にしていくことができれば、今後、全国の同様な自治体における地方創生のモデルにもなると考えている。そのため、様々な立場から自由闊達にご議論いただくことを期待させていただき、村を代表しての挨拶としたい。</p>

議事経過	(2)委員紹介
	【事務局】 【資料1】を基に説明後、 委員11名、アドバイザー3名が名簿順に挨拶

議事経過	(3)今後の検討に向けて
	【事務局】 【資料2】を基に説明 【柳川奈奈氏(設計工房顕塾)】 【資料3】を基に説明
	【GPMO】 【資料4】を基に説明
	【事務局】 【資料5】を基に説明
	【岡宗委員】 次回から本格的な議論が始まる認識。 委員には早めに資料を送付し、意見を促すようにしてほしい。
	【橋本委員長】 この機会を捉えて村の教育や検討委員会への関心を高めてほしい。 以前は教室の形が決まっていたが、環境の変化に応じて色々な形が出てきた。 古い校舎の形ではなく、効果的な学びの空間について議論していただきたい。
	【山崎委員】 今日頂いた膨大な情報をどうまとめていくか。 より良い保小中の取組につながるよう、次回以降、具体的に議論していきたい。
	【熊瀬委員】 子どもたちにとって安全・安心できる施設整備が最優先。 (保小中の)物理的な問題についても議論を深めていきたい。
	【土居委員】 今回の説明資料をじっくりと目を通し、次回以降の議論に備えたい。
	【百々委員】 次回以降、色々とお知恵を頂きながら進められるとよい。
	【井津(文)委員】 特になし。
	【田所委員】 本委員会の検討に当たっては、保小中一体化教育の推進が前提であるか。 他の事例を含め、一体化教育の長所と短所を聞きたい。 子どもが少ない環境だが、一体化教育を進めるメリットはあるか。 →【事務局】これまで進めてきた保小中一体化の取組を充実していく方針。

	<p>保小中一体化のメリット等については、次回整理して説明したい。</p> <p>【稻毛委員】</p> <p>自身の子どもがいる中学2年生のクラスは4人のみ。 少人数でも、今の環境下で様々な経験の機会を頂いている。 そうした長所を活かし、将来の子どもたちにとって有益なものとなればと思う。</p> <p>【井津(信)委員】</p> <p>保小中を1つにまとめていくのならばそれなりの施設を考えるべき。 安全な施設とすることはもちろん、土石流による危険や、奈半利川の増水リスクなども考えられ、施設の立地についても考える必要があるのではないか。 →【事務局】防災の観点も含めて施設の配置を検討する必要があると認識。</p> <p>【有光委員】</p> <p>安芸市赤野地区では、コミュニティスクールに一早く取り組んでいる。 地域と学校が密接に関わり合いながら、子どもたちを育していくことが大事。 自身も、地域の伝統行事である「赤野獅子舞」を通じて子どもたちと関わっているが、子どもたちがのびのびと成長しているように思う。</p> <p>【長岡アドバイザー】</p> <p>多様な学習形態に対応できる施設も、地域の方々と交流できる施設も、地域の方々が集える施設も、いずれの観点も重要と認識。 何より、子どもたちにとって「明日を生きたい」と思える空間づくり、また、親御さんが「(この学校なら)行かせたい」と思える環境づくりが大事。 「やさしい空間」と、「アカデミックな空間」の両面から議論できるとよい。</p> <p>【岩城アドバイザー】</p> <p>学校づくりを通じて北川村の未来を村全体で描いていくことに期待。 子どもたちが地域で学び、この地域に誇りをもてるようになることが大事。 財政面を考慮しつつ、実現可能なものを考えていくとよいだろう。 保小中一体化の良さを発揮するにはどういったものが必要かを考えていきたい。</p> <p>【野島アドバイザー】</p> <p>防災や安全・安心の視点は学校を考える上で最も重要。子どもたちの安全はもちろん、緊急時には地域の避難所となることを加味する必要がある。 0歳から100歳までのみんなが使えることを想定したコンセプトを意識すべき。子どものために、という議論は言わずもがな、自分(住民)のために使えるという視点も重要。 既存の学校機能を最大限に活かし、多様な利用可能性を探求していきたい。</p>
--	---

議事経過	<p>(4)次回の検討委員会について</p> <p>【事務局】</p> <p>次回については、11月下旬で考えているが、具体的な日時については、追って委員及びアドバイザーの皆様と調整の上、決定・通知することとしたい。</p>
------	--